

OHT事業アップデート

2026年5月15日
横浜ゴム株式会社

厳しい逆風にもかかわらず、OHTは非常に力強い第1四半期の業績を達成

2026年度 第1四半期 市況

第1四半期のOHT市場は、戦争による不確実性により顧客の購買意欲が鈍化し、非常に厳しい状況

- ・ 農家は、肥料や燃料価格の高騰により、農機用タイヤの購入に慎重

2026年度 第1四半期 業績

逆風に直面したものの好調を維持、Y-ATGは市販用、Y-TWSは新車用でシェアを拡大

- ・ 第1四半期のOHTの事業利益は118億円となり、**前年同期比207%の大幅な増益を達成**

通期見通し

通期見通しについては、引き続き多くの逆風を見込む

- ・ 原材料価格の高騰および原材料供給不足への懸念、多くのサプライヤーが既にフォースマジュールを宣言
- ・ 燃料価格の高騰により、輸送コストが高騰、ほとんどの物資・サービスでインフレが加速

期初計画達成 のための 打ち手

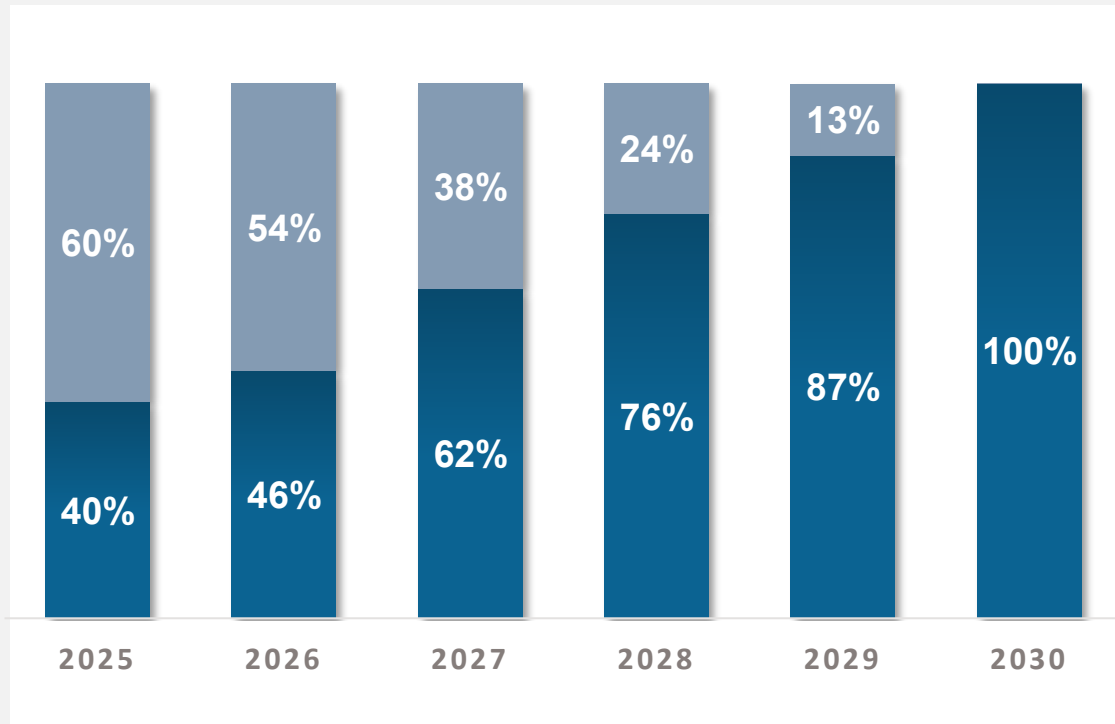
厳しい状況下においても、以下の施策により、2026年度 期初計画を達成する

- ・ 原材料不足による生産停止を回避するため、新たな原料調達先を確保する
- ・ 原材料費およびエネルギーコストの上昇分について、適正な価格転嫁を適時実施する
- ・ 多数の新製品ラインナップ（農機用バイアスタイヤ、農機用ラジアルタイヤ、UTV用タイヤ）の投入により、市場シェアをさらに拡大する
- ・ 米国政府からの関税還付を推進する
- ・ バックオフィスおよびIT分野におけるシナジー効果を最大化するため、OHT事業のグローバルリソースを活用し、コストを削減する
- ・ G-OTRの生産移転によるコスト削減

G-OTRの生産は2029年までに段階的に内製化を進め、製造コストを大幅に削減

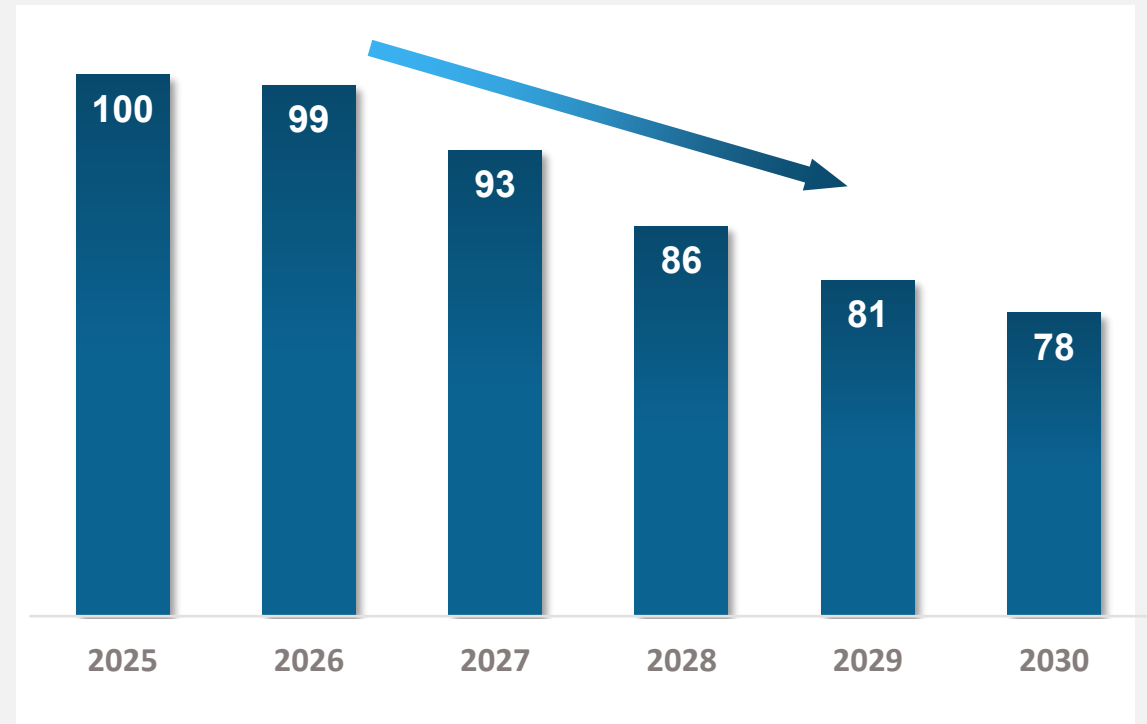
内製およびGY工場生産委託比率

■内製 ■GY工場生産委託



- 2030年までに100%内製化する計画
 - インド新工場（2028年Q3～）、メキシコ工場第2期拡張（2028年Q2～）への移管を含む

製造原価指数



- 2025年を100とした場合のコスト推移